

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	41	大学等名	追手門学院大学
テーマ	テーマⅢ（入試改革）		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、学長を中心として構築された実施体制が実際に機能し、アサーティブ課及びアサーティブ研究センターの業務、外部も含めた評価体制の確立等の取組が、着実な成果に結びついていることは評価できる。また、アサーティブプログラムやMANABOSS システムのソフトウェアとコンテンツの開発等、入学者選抜と教育システムが大学の特徴としてアピールされ、他大学の教育プログラムのモデルの1つとなることが期待されていることも評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、PDCA 会議の定期的な実施により取組の進捗が図られていることに加え、本事業における取組は、学力のみにとられない入学者選抜の象徴的な事例であるだけでなく、高大接続改革の成功事例の1つとして、当初の目標を達成していることは高く評価できる。また、学生たち1人1人の学びの意欲を引き出す具体的な取組が順調に進められているとともに、WIL（Work-Is-Learning）プログラム策定等の取組にも発展しており、アサーティブガイダンス等への学生の積極的参加も行われるなど、当初の目標を上回る成果を上げていることは高く評価できる。なお、必須指標である「多様な評価尺度による入学者選抜を経た募集人員の割合」については、目標値との乖離が大きいことから、引き続き目標達成に向けた取組の実施が求められる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、補助期間終了後の継続発展に向け、「アサーティブ研究センター」を中心に調査研究を進め、当初の目標を達成することに加え、新たに認識された課題解決のための新しい取組も行われていることから、今後の発展が期待される。また、アサーティブ入試で入学してきた学生達の勉学への意欲、目的意識を含む主体性、アサーティブガイダンスに参加する積極性が見られることは、事業の定着に向けた強い要素として評価できる。

事業成果の普及については、アサーティブ講演に参加する高校生の人数及びアサーティブ入試出願者数等が一定の水準に達していることから、本事業に関する当該大学の取組が着実かつ有効に広報されていると評価できる。なお、アサーティブ入試入学者について、卒業時の達成度等を様々な尺度により調査・分析を進めることで、更なる発展が期待される。